

公共施設等のあり方に関する第4次実施計画の概要

I. 実施計画とは

計画の目的

実施計画は、上位計画である、飯塚市第3次公共施設等のあり方に関する基本方針(公共施設等総合管理計画)を踏まえ、施設類型ごとの最適化方針や官民連携等による運営方法の検討を行い、各施設の個別方針を策定するものです。

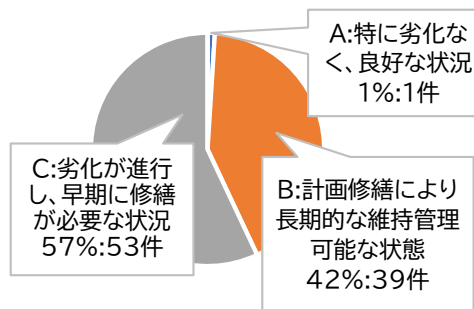
対象範囲・期間

本計画の対象範囲は、個別施設計画のあるインフラを除く、すべての公共施設の建築物とします。
本計画の期間は、令和8年度から令和17年度までの10年間です。

II. 施設の概要と課題

建物の劣化診断結果

93施設を対象に、劣化や損傷の進行状況を把握するための劣化診断を実施しました。前回調査時より築年数の古い施設が多く、全体として評価が低下しています。



※D:劣化が著しく、早急な修繕が必要な状況は0件であった。

施設カルテ

施設ごとに、延床面積、劣化状況、稼働率、耐震状況などの基礎情報を取りまとめた「施設カルテ」を作成し、全体および施設分類ごとの集計結果を示します。これらの客観的かつ科学的なデータに基づき分析を行い、公共施設の最適化を進めてまいります。

実施計画における課題

人口・財政規模に応じた公共施設の適正化

施設に関するコスト最適化

適正な受益者負担の実現

III. 第4次実施計画

最適化に向けた全体方針

公共施設等の最適化を行うために、6つの指針を定めています。

① 総量の最適化

10年間の削減目標約4.5万㎡の達成に向け、老朽化施設の廃止・移転・集約などにより、最適化を進めます。

② 配置の最適化

公共施設の減少によるサービス低下を防ぐため、多機能化・複合化や適切な配置を進めます。

③ 運営主体の最適化

指定管理者制度などのPPP手法の導入や地域との連携に取り組みます。

④ 運営方法の最適化

利用料収入の見直しによる受益者負担の適正化などや、施設利用時のDX化の推進などに取り組みます。

⑤ 空きスペースの有効活用

低利用(低稼働)スペースの有効活用を図ります。

⑥ 跡施設・跡地の有効利活用

行政による利活用策を検討し、活用がない場合は、民間への譲渡(売却)を行います。

長寿命化方針

長寿命化が適合すると判断した建物の目標使用年数は、「建築物の耐久計画に関する考え方」に基づき80年、60年と設定し、効率的な施設整備やメンテナンス費用等の削減等により、コストの縮減に向けた取り組みを行います。

構造	鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造	鉄骨造、軽量鉄骨造、ブロック造、木造
目標使用年数	80年	60年

計画の達成の進捗管理

施設カルテを毎年更新し、第4次実施計画の進捗管理を行います。進捗管理については、定期的に内部・外部での評価を実施していきます。